

# お別れの言葉

私<sup>♀</sup>たちの  
又勇気  
なんだからー

宝

中西さんの  
笑顔は  
ご家族の



憲法九条は  
日本の宝!



本日はお忙しいところ、中西みよ子の告別式にご参列いただきまして、まことにありがとうございます。

五十歳のとき、乳がんの手術を行い、再発の繰り返し、それ以来抗がん剤・温熱療法・免疫療法・血管内治療とあらゆる治療とあらゆる治療に取り組んできましたが、私のガンはガンとして小さくならず、私の体を蝕んできました。

二〇〇七年十一月から三か月最後の治療として高知・土佐清水病院に入院し、漢方療法を中心とした治療を受けましたが、結局効果はありませんでした。

私はまた五十四歳もつと長生きして、いろんなことをやりたかった。もつと、人のお役に立ちたかったのに残念です。

しかし、私は、自分の人生に悔いはありません。

高校を卒業し寮と会社の往復でつまらなく「何かもつとやりがいのある仕事をしたい。」と東京にでてまいりました。東京にでて、女子栄養短期大学・女子栄養入学と七年間働きながら学び続けました。この中で自分の生きがいと社会進歩につなげて活動する共産党との出会い、この出会いが私の人生を常に前向きに示してくれました。

大学を卒業した私は、どうしても、教師になりたいと教員採用試験に何回も挑戦しながら高校の家庭科の非常勤教師となりました。ここで、教えることの難しさ、生徒にわかってもらえた時の喜びを味わい、もつと子供達に単なる知識ではなく、人生に役立つ知識をといろいろ工夫しました。

教師という仕事の魅力にとりこまれ、これから常勤教師となって本格的に教師の仕事を始めようという矢先、市会議員の声がかかりました。相当悩みましたが、教師は私ではなくてもっと優秀な人がいる。市会議員はなかなか人がいない。それなら自分がやろうと決心しました。

しかし、市会議員という仕事も大変やりがいのある仕事でした。

市民のみなさんが、悩み苦しんでいることに、耳を傾け一緒に動き、解決できた時、市民の願いを議会でも何回も取り上げ、実現した時ほど嬉しいことはありませんでした。

私が印象に残っていることは、いつも雨。

雨が降るたびに三十数年浸水している地域にやっと公共下水道が通り「これで雨の心配いなくなる。これで、やっとおばあちゃんにウォシスレットを使わせられる」と喜んで頂いたこと。

現在、門真市駅前にドラッグストアが出来ていますが、ここが長年、空き店舗になっていたとき「ここにパチスロ店を」との話が出た時、PT甲、自治会などが一緒になって運動を行い、私も議会で、市長に再質問まで行い答弁を求め、ついにパチスロ店出店を断念させたこと、旧門真南高校がつぶされず、「市民総合センター」として残り、市民のスポーツ・文化の拠点として残ったことなどを誇ります。

みなさんの温かいご支援のもと、三期十二年間、よい仕事が出来たことを誇りに思います。

また、私の生涯の中でアレルギー問題に取り組みアレルギーで苦しむ子供、お母さん 方のより所として「門真アレルギーを考える会」を結成し十七年間活動してきたことも大きな役割をはたしてきたと思っています。

平和の問題も重要です。平和でなければ、病氣も治せないし、自由に生きることができません。

いま、憲法九条を変えてまた、日本を戦争する国につくり替えるという、きつい動きが強まっています。そのため、「九条の会」が全国で立ちあがって門真でも市民の方ががんばっています。

私は、病氣の為残念ながら充分なことではできませんでしたが、大きな運動となるよう願っています。

今や、三人に一人がかんで亡くなるという時代、皆さん方もお体に十分に気をつけて頂き、私の方まで長生きしていただけます様よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、残された家族（夫・長女・長男）も寂しい思いをしていると思います。街角でみかけましたら声をかけていただきますようお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

二〇〇八年四月十三日

中西みよ子